

社会教育施設の紹介



宿泊研修を通して人間づくり

福島県少年自然の家

一、はじめに

在学少年に対する社会教育施設として、昭和四十七年に設置された当少年自然の家も、六年を経て延べ利用者数も二十五万人を突破するに至った。

当施設は、宿泊と研修の両活動を通して、人間づくりを進めているが、ここでは、昭和五十一年度中の研修活動に焦点をあて、主に、どんな活動ができるのか、その一端を紹介したい。

二、昭和五十一年度研修状況

次表は、五十一年度入所団体の実施した、主な研修活動の度数である。

この表から、夜間においては、研修



みんな楽しく野外炊飯

主な研修活動

研 修 内 容	学 校 ( 校 )	社 教 ( 団 体 )	計	研 修 内 容	学 校 ( 校 )	社 教 ( 団 体 )	計			
レクリエーション	フォークダンス	93	23	116	野活	登	山	25	4	29
	野 外 ゲ ー ム	35	7	42		フィールドワーク		133	8	141
	ゲ ー ム 活 動	21	12	33		オリエンテーリング		90	19	109
ス活	屋 内	13	6	19		ハイキング		23	11	34
	屋 外	6	1	7	外動	ファイヤー		185	34	219
ボ	サーキットコース	49	17	66	そ活	自然観察		7	1	8
	水 泳	13	21	34		労 作 活 動		12	1	13
ツ動	そ り	23	5	28	の	自由活動		4	5	9
	キャンピング	60	16	76	他	講 義 ・ 討 議		1	18	19
野活	テント設営	25	10	35		造 形 活 動		2	4	6
外動	野 外 炊 飯	75	22	97	の動	交 歓 の つ ど い		12	19	31



自然林の中でゲームのひとつ

内容が限定されることもあって、春から秋にかけてのキャンプファイヤー、雨天時や冬季間のキャンドルファイヤーのひん度が最も高い。次に、晴雨、季節にかかわらず年間を通して実施可能なフィールドワークも多い。フォークダンスやゲームも、なごやかなふんい気の中で、心を和らげ仲間づくりを図るために実施されている。プールに恵まれない学校の水泳、浜通りから雪を求めてのそりすべり、他団体と心の交流を図る交歓のつどいなども喜ばれている。数こそ少ないが、教育的な意図のもと、炎天下汗を流しての労作活動も、特筆するところである。

三、主な研修活動

次に、主な研修のねらいと、その活動を紹介したい。

(1) キャンプファイヤー(キャンドル)

キャンプ生活の中で、最も楽しい行事は、キャンプファイヤーであろう。

大自然の静寂さと、厳肅なふんい気の中で、聖なる火を迎え、赤々と燃える管火を囲み、歌い、踊りそしてスタンプ演技に若い情熱を発散させる。その楽しいひととき、忘れ得ない思い出となろう。友との親睦を深め、清純な心と協力を通しての社会性を求めて、シーズン中は三つの管火場が、連日、フル回転の盛況ぶりである。

(2) フィールドワーク

サインを道しるべとして、山野に固